

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」と「思考力、判断力、表現力等A話すこと・聞くこと」において県平均、全国平均を大きく上回った。 ●「知識及び技能(2)情報の扱い方に関する事項」において県平均、全国平均並みであった。情報同士の関係付けや図などによる語句と語句との関係を理解することに苦手な傾向が見られた。	・聞いた情報を整理したり、イメージしたりすることに苦手な傾向があるため、 ①生活の中で聞くための学級環境や仕組みづくり、聞く活動を設定 ②図書館と協力し、読み聞かせ活動の設定 ③読書活動の充実 など聞くことに重点を置いた活動の充実を図る。
算数	○「C測定」において、県平均、全国平均を大きく上回った。 ●「B図形」において全国平均を下回った。特に、図形の角の大きさの理解、面積の求め方での正答率が低かった。 ●「A数と計算」において、県平均、全国平均を大きく下回った。特に、分数の値を数直線上に表すことの正答率が低かった。また、問題文を正確につかめておらず、間違った答え方をする児童もいることがわかった。	・問題場面や問われていることがイメージできるようにするために、 ①授業で問題に取り組む前に、1度声に出しての読み上げ ②ペアで問われていることの確認 などを行う。
理科	○「地球を柱とする領域」において県平均、全国平均を上回っていた。 ●「生命を柱とする領域」において県平均、全国平均を下回った。植物の成長に関する問題での正答率が低い。特に発芽をするために必要な条件を考え、実験の条件を制御した実験の方法を考えることに苦手な傾向が見られた。	・学習、実験への必要感をもたせられるような授業展開、授業づくりを工夫する。 ・考える時間を十分に確保し、対話による学びの深まりをめざす。

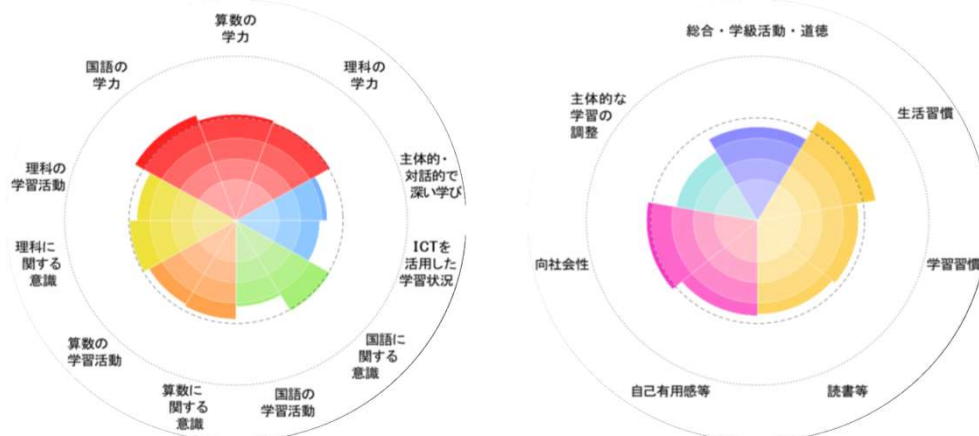
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○読書を好きという項目で県平均、全国平均を上回った。 ●家庭学習の時間が1日1時間以上という項目では、県、全国平均を大きく下回った。時間が全てではないが、家庭学習をする習慣をつけていかなければならない。	・1日の中で学習に向かう時間を作れるように、児童への指導や家庭との連携をとっていく。 ・普段の授業から学習への意欲がもてるような課題や内容にする。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	引き続き、読書の習慣は続けていく。 授業でのICT活用が島根県、全国と比べて低くなっている。授業の中で有効的にICTを活用する。 児童の学習への意欲を高められるように教師間で授業の共有や教材研究などをしていく。(学年部などで重点単元の作成など。)
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

101

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

